

第5学年 体育 学習指導案

令和5年6月20日(火) 第5校時
大田区立松仙小学校 5年1組 33名
授業者

校内研究のテーマ

主体的に学び合う楽しい体育学習

～児童がすすんで運動に取り組み、仲間との学び合いを通して～

1 単元名

器械運動領域「マット運動」～自己の習得したい技の課題を解決しよう～

2 単元の目標及び単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の目標	マット運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができるようにする。	自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	マット運動に積極的に取り組もうとし、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めようとしたり、場や器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
単元の評価規準	<p>① マット運動の行い方や動きのポイントについて、言ったり書いたりしている。(知識)</p> <p>② 回転系の技の行い方やポイント、練習の仕方を理解している。(技能)</p> <p>③ 巧技系の技の行い方やポイント、練習の仕方を理解している。(技能)</p> <p>④ 自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技や発展技に取り組み、技を身に付けている。(技能)</p> <p>⑤ 選んだ技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。(技能)</p>	<p>① 自己の能力に適した技を選んだり、課題を見付けたりしている。(思考・判断)</p> <p>② 学習資料を活用して練習の場や練習の仕方を選んでいる。(思考・判断)</p> <p>③ 課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。(表現)</p>	<p>① マット運動に進んで取り組もうとしている。(愛好的態度)</p> <p>② 運動を行う際のきまりを守り、仲間と助け合おうとしている。(共生)</p> <p>③ マット運動を行う場の設定や器械・器具の片付けなどで、分担された役割を果たしている。(責任・参画)</p> <p>④ マット運動を行う中で互いの動きを見合う際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。(公正・協力)</p> <p>⑤ マット運動をする際に、使用する器械・器具などを片付けたり場の整備をしたりするとともに、器具の安全に気を配っている。(健康・安全)</p>

3 単元について

○単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年 7 月告示）体育〔第 5 学年及び第 6 学年〕の B「器械運動」の、

- (1) ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすること。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすること。

を受けて設定した。

本単元では、第 1 時でマット運動の行い方、安全に取り組むための約束を確かめ、4 年生までに学習してきた技に取り組む。また、技の系統性を確認し、児童が習得したい技を選んだり実際に取り組んだりして、技能の現状を知る。第 2～3 時では、回転系の技の行い方やポイントを知り、自己の能力に適した技を選んだり課題を見付けたりする。第 4 時では、巧技系の技の行い方やポイントを知り、自己の能力に適した技を選んだり課題を見付けたりする。また、第 2～4 時で取り組んできたことを通して、児童が単元の後半で精度を高めたい技を決める。第 5～6 時では、自己の課題に適した練習の場や方法を選んで取り組んだり、仲間と互いの動きを見合ったりして、技の精度を高めることを目指す。第 7 時では、これまでの学習や練習を通して身に付けた技を仲間同士で見合い、その出来栄や技能の伸び具合を伝え合う。

課題解決に向けて、技のポイントと課題を明確にしたフローチャートを提示する。また、場を工夫することで、児童が自らの課題に応じた練習を選択できるようにする。さらに、ワークシートについては、見付けた技の課題を書いたり本時のめあてを記入したりできるように工夫する。これらの工夫をすることで、児童が主体的に運動に取り組む姿を目指す。手本の提示については、それぞれの技の行い方やポイントをいつでも確認できるようにするために、児童が持つクロームブックを介して技の動画を児童に提示する。図だけでなく動画でも示すことで、技の行い方やポイントをより理解できるようにする。また、必要に応じて ICT 機器を活用することで、児童が自己の技の出来栄を客観的に見られるようにし、できた実感を味わえるようにする。さらに、仲間と伝え合ったり互いの技を見合ったりすることを通して、児童が技能を高めることを目指す。そのために、互いの技の課題を解決する方法を模索する「共有タイム」や、互いの技の出来栄や技能の伸び具合を伝え合う「チャレンジタイム」などの時間を設定する。

○運動の特性

【一般的特性】

<機能的特性>

- ・運動形態が非日常的であるため、興味を示しにくいですが、練習により新しい技ができるようになると率先して取り組み、次の新しい技に挑戦しようとする意欲が出てくる運動である。
- ・自己の能力に応じた回転系、功技系の技に挑戦し、個々の技やこれらの組み合わせが円滑にできるようになるところに、楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

<構造的特性>

- ・基礎的な技をより高めたり、できそうな発展技に挑戦したりする運動である。
- ・安全に運動を行うための児童相互の補助や協力を必要とする運動である。
- ・回転系と巧技系の 2 つに分かれ、前方や後方、側方に回転する回転系と、倒立したりバランスをとったり、巧みにジャンプする技からなる巧技系の運動である。

【児童から見た特性】

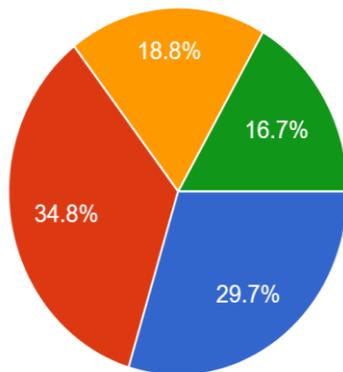
- ・できなかった技ができた時、できる技を調子よく取り組んでいる時、新しい技に挑戦している時に楽しいと感じる運動である。
- ・自己の能力に応じた課題を選んで実践できるため、意欲的に取り組むことができる運動である。
- ・運動や経験の違いにより技の種類や技能の習得の程度に差が出たり、気持ちのもち方や授業の取り組み方によっても差が出たりする運動である。

○児童観

5年1組の児童は、学習に対して意欲的な姿が多く見られる。体育の学習を楽しみにしている児童も多く、運動に夢中になって取り組む姿が見られる。これまでの学習（陸上運動のリレー）では、チームで一生涯懸命に運動に取り組もうとする意欲が見られ、課題を意識することができている。一方で、課題を解決するための運動や練習の仕方が分からずにいる姿がある。今回の単元では、運動の行い方を理解し児童が楽しみながら自分や仲間が成長していけるように手立てをうつ。また、友達に対してアドバイスをしている児童を教師が賞賛することで友達同士と主体的に学び合う学びを目指したい。

5年生の児童を対象とした、事前アンケートの結果（5月初旬実施）は以下の通りである。

①マット運動は楽しいですか？

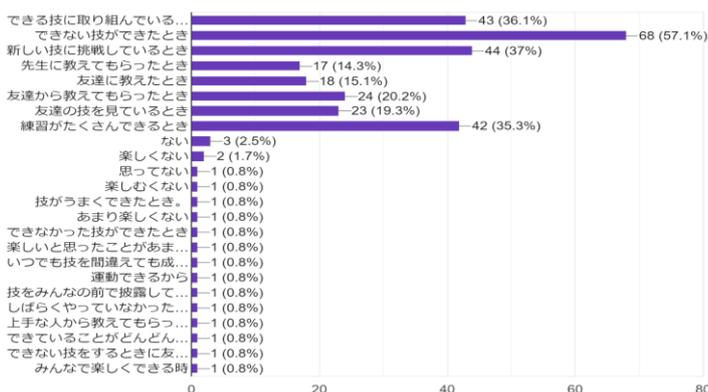


5年生全体で4月に実施した体育アンケートでは、95%の児童が体育を楽しんでいることが分かった。楽しいと感じている運動（複数回答）の中で、マット運動を楽しんでいる児童は21人（6.3%）いたが、楽しいと思わない運動（1回答のみ）の中で器械運動が40%と多かった。その中の17%の児童がマット運動を楽しんでいることが分かった。

①の結果から、マット運動を楽しんでいる児童が64.5%だった。この数値は4月に実施した体育アンケートの結果よりも、マット運動を楽しんでいる児童が多くいることが分かった。

②マット運動で楽しいときはどんなときですか？

マット運動で楽しいときはどんなときですか？（複数回答可）
119件の回答

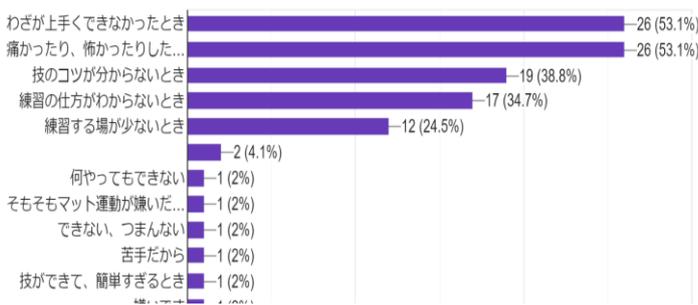


②の結果を見ると、マット運動が楽しいときは「できない技ができたとき」、「新しい技に挑戦しているとき」、「できる技に取り組んでいるとき」と答えた割合が多い。このことからマット運動を楽しんでいるときは、今までできなかったことができるようになったり、できる技を繰り返している時に多いことが分かる。また、練習する時間や場をしっかりと確保することで、楽しいと感じられる機会を増やせることが分かる。

③ マット運動で楽しくないときはどんなときですか？

マット運動で楽しくないときはどんなときですか？（複数回答可）

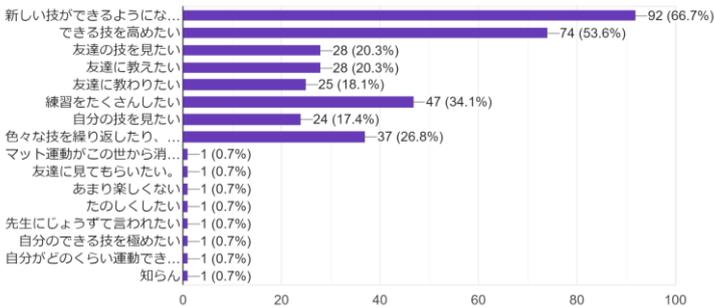
49件の回答



④ マット運動の学習を通して

マット運動の学習を通して

138件の回答



「友達から教えてもらったとき」(20.2%)、「友達の技を見ているとき」(19.3%)、「友達に教えたとき」(15.1%)に楽しいと感じていることが分かる。したがって、友達同士で教え、学び合う手立てが必要であると考えられる。この手立てを取ることで児童がマット運動を楽しむことができ、主体的に学び合う楽しい体育学習の研究テーマに迫ることにつながる。②の結果を見ると、

③の結果を見ると、「わざが上手くできなかったとき」、「痛かったり、怖かったりしたとき」と答えた割合が多い。このことからマット運動が楽しくないときは、マット運動に対して恐怖心を抱いたり、技ができなかったりする時に多いことが分かる。また、「技のコツ」、「練習の仕方が分からない」、「練習の場が少ないとき」が楽しいと思わないため、児童が技能のポイントやコツを見付け理解できる手立てが必要であると考えられる。

④の結果を見ると、「新しい技ができるようになりたい」と答える割合が66.7%と最も多い。技能を習得することに次いで、「できる技を高めたい」と答えた割合が53.6%と技能の練度を高めることにゴール像を持っている児童が多いことがわかる。そのためにも、「練習をたくさんしたい」、「色々な技を繰り返しや組み合わせる」時間を設けたり、「自分や友達の技を見たり、友達と教え合ったり」する機会を作ったりする手立てが必要であると考えられる。②の結果を見ると、

課題解決の視点

- ① 主体的に取り組むための工夫
- ② 学び合うための工夫
- ③ できたと実感するための工夫



○テーマに迫る手立て

<p>主体的に取り組むための工夫</p>	<p>技の課題が分かるチェックシートの提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が技の課題を細かく理解するとともに、児童自身の課題が技の中のどこにあるのかを明確にさせる。自分の現状や課題を知ること、児童が課題を解決するために必要な練習方法を考え、選択することに生かせるようにする。 <p>場の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各マットの近くには「ゴムひも、踏み切り板、跳び箱の1段目、細長いマット」を置いておく。児童一人一人が課題を解決できるようにするため、膝を伸ばしたり、振り上げ足を高く振り上げたりするなどの課題に応じた練習を選択できるようにする。課題に応じた練習を選択することで、自己の課題に対して、どのような練習をすれば解決できるかを考え、取り混ぜるようにする。 <p>ワークシートの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートでは、個人の習得したい技の課題を見つけて書く欄を設定する。また、振り返りでは次時のめあてを書くようにさせる。そうすることで、技の中で自己の課題を捉えるとともに、次時の取組や練習方法を選択することに生かせるようにする。
<p>学び合うための工夫</p>	<p>マット運動学習アプリの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マット運動学習アプリを活用することで、児童が技のポイントを理解し、自己の課題を明らかにできるようにする。児童が「上手になりたい。」や「どうすればいいだろうか。」などの気持ちを絶やさないようにするため、児童が必要な時にいつでも見返すことができるように、大型テレビで映しておく。 <p>グループの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の技の課題を伝えたり、互いに技の課題を見合ったり、アドバイスをしたりするために、単元を通して児童3～5人をグループとする。単元を通して同じ児童をグループにすることで、児童同士が互いの変容を細かく見ることができ、アドバイスをしやすいようにする。 <p>アドバイスタイム・練習タイム②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスタイム：互いに課題の現状を確認し、どのようにすれば課題を解決することができるかを話し合ったり、次の練習方法を選択したりする。 ・練習タイム②：共有タイムを生かして、自己の課題を解決するための練習をすることで課題を解決できるようにする。
<p>できたと実感するための工夫</p>	<p>技の課題が分かるチェックシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技の課題が分かるチェックシートには、課題を解決できたことが分かるようにチェック欄を設ける。児童の習得したい技の課題が、どこまで解決したのかを可視化することで、自己の課題をどこまで解決できたかが実感できるようにさせる。 <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイムシフトカメラ：技ができたという実感をもたせるために、ICTのタイムシフトカメラをマット運動の場に必要なに応じて設置し、使用させる。個人の技の出来栄を客観的に見られるようにする。 <p>チャレンジタイム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジタイム：グループで互いの技の課題や出来栄を見合うようにする。共有タイム・練習タイム②を共にしたメンバーで、互いに技の出来栄を伝えたり、必要に応じてタイムシフトカメラで見合ったりすることで、ほんの少しの進歩にも気づき、できたことを実感できるようにさせる。

4 技の系統性

児童の発達の段階を踏まえ指導内容の明確化を図るとともに、指導内容の確実な定着を図るために、運動の系統性を図った。学年のつながりを考慮しながら、指導内容を確実に定着させられるよう学習を進めていく。

			第5学年	第6学年
系	技群	グループ	発展技	更なる発展技
回転系	接転技	前転	開脚前転 両手と後頭部をつきながら腰を高く上げ前方へ回転し、膝を伸ばして足を左右に大きく開き、接地するとともに素早く両手を股の近くに置いて膝を伸ばしたまま開脚立ちをすること。	易しい場での伸膝前転
		前転	補助倒立前転 片足を振り上げ補助倒立を行い、前に倒れながら腕を曲げ、頭を入れて前転すること。	倒立前転
		後転	易しい場での伸膝後転 直立の姿勢から前屈しながら後方へ倒れ、尻をつき、膝を伸ばして後方に回転し、両手でマットを押して膝を伸ばしたまま立ち上がることを。	伸膝後転
	ほん 転技	倒立 回転	倒立ブリッジ 倒立位から前方へ体を反らせ、ゆっくりと足を下ろしながらブリッジの姿勢をつくること。	前方倒立回転
		倒立 回転	ロンダート 助走からホップを行い、片足を振り上げながら片手ずつ着き、体を1/2ひねり両足を真上で揃え、両手で押しながら両足を振り下ろし、空中で回転して立ち上がることを。	
		はね 起き		頭はね起き 両手で支えて頭頂部について屈身の姿勢の頭倒立を行いながら前方に回転し、尻が頭を越えたら腕と腰を伸ばし、体を反らせながらはね起きること。
巧技系	平均 立ち技	倒立	補助倒立 体を前方に振り下ろしながら片足を振り上げ両手を着き、体を真っ直ぐに伸ばして逆さの姿勢になり、補助者の支えで倒立すること。	倒立

5 第5学年 単元の指導と評価の計画（全7時間）

時間	1	2	3	4	5	6 (本時)	7
学習段階	知る	つかむ			深める		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> マット運動の行い方を知る。㊦ マット運動の約束を守り、積極的に運動している。㊧ 	<ul style="list-style-type: none"> 回転系の技の行い方やポイント、練習の仕方を理解することができる。㊦ 自己の能力に適した技を選んだり、課題を見付けたりしている。㊧ 	<ul style="list-style-type: none"> 回転系の技の行い方やポイント、練習の仕方を理解することができる。㊦ 自己の能力に適した技を選んだり、課題を見付けたりしている。㊧ 	<ul style="list-style-type: none"> 巧技系の技の行い方やポイント、練習の仕方を理解することができる。㊦ 自己の能力に適した技を選んだり、課題を見付けたりしている。㊧ 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の課題に適した練習の場や練習の仕方を選んでいる。㊦ 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。㊦ 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技や発展技に取り組み、技を身に付けたり、選んだ技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。㊦ マット運動を行う中で互いの動きを見合う際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。㊧
学習活動	1めあての確認 2場・器具の準備						
	マット運動の行い方を知ろう。	回転系の技の行い方を知り、自分の課題を見付けよう。	回転系の技の行い方を知り、自分の課題を見付けよう。	巧技系の技の行い方を知り、自分の課題を見付けよう。	仲間と互いの動きを見合い、自分の課題に取り組もう。	仲間と互いの動きを見合い、自分の課題に取り組もう。	互いの演技を見合い、伸びたところを伝え合おう。
	3準備運動・補助運動（感覚づくり運動）						
	4 マット運動の約束の確認をする。 5 4年生に取り組んだ技を振り返る。 6 技の系統性を確認し、習得したい技を選択する。 7 習得してみたい技やその前段階の技に取り組み、自分の現状を知る。	4 開脚前転の行い方を知り、取り組む。 5 易しい場での伸膝後転の行い方を知り、取り組む。 6 アドバイスタイム 7 自分の課題を知る。	4 倒立ブリッジの行い方を知り、取り組む。 5 ロンダートの行い方を知り、取り組む。 6 アドバイスタイム 7 自分の課題を知る。	4 補助倒立の行い方を知り、取り組む。 5 補助倒立前転の行い方を知り、取り組む。 6 アドバイスタイム 7 自分の課題を知り、取り組む技を決める。	4 課題把握・練習確認 5 練習タイム① 6 アドバイスタイム・練習タイム② 7 チャレンジタイム	4 課題把握・練習確認 5 練習タイム① 6 アドバイスタイム・練習タイム② 7 チャレンジタイム	4 課題把握・練習確認 5 練習タイム① 6 アドバイスタイム・練習タイム② 7 チャレンジタイム
8整理運動 9振り返り（クラス全体・個人） 10片付け							
評価の重点	知	① 学習カード	② 運動の様子	② 運動の様子	③ 運動の様子	④ 運動の様子	④ 運動の様子
	思				① 学習カード	② 運動の様子 学習カード	③ 運動の様子 学習カード
	態	①② 児童の様子 学習カード	③ 運動の様子	⑤ 運動の様子			

※太枠は「記録に残す評価」、その他は「指導に生かす評価」とする。

6 第6学年 単元の指導と評価の計画（全7時間）

時間	1	2	3	4	5	6 (本時)	7
学習段階	知る	つかむ			深める		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> マット運動の行い方を知る。☒ マット運動の約束を守り、積極的に運動している。☑ 	<ul style="list-style-type: none"> 回転系の技の行い方やポイント、練習の仕方を理解することができる。☒ 自己の能力に適した技を選んだり、課題を見付けたりしている。☒ 	<ul style="list-style-type: none"> 回転系の技の行い方やポイント、練習の仕方を理解することができる。☒ 自己の能力に適した技を選んだり、課題を見付けたりしている。☒ 	<ul style="list-style-type: none"> 巧技系の技の行い方やポイント、練習の仕方を理解することができる。☒ 自己の能力に適した技を選んだり、課題を見付けたりしている。☒ 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の課題に適した練習の場や練習の仕方を選んでいる。☒ 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。☒ 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技や発展技に取り組み、技を身に付けたり、選んだ技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。☒ マット運動を行う中で互いの動きを見合う際、仲間の考えや取組を認めようとしている。☑
学習活動	1めあての確認 2場・器具の準備						
	マット運動の行い方を知ろう。	回転系の技の行い方を知り、自分の課題を見付けよう。	回転系の技の行い方を知り、自分の課題を見付けよう。	巧技系の技の行い方を知り、自分の課題を見付けよう。	仲間と互いの動きを見合い、自分の課題に取り組もう。	仲間と互いの動きを見合い、自分の課題に取り組もう。	互いの演技を見合い、伸びたところを伝え合おう。
	3準備運動・補助運動（感覚づくり運動）						
	4 マット運動の約束の確認をする。 5 5年生に取り組んだ技を振り返る。 6 技の系統性を確認し、習得したい技を選択する。 7 習得してみたい技やその前段階の技に取り組み、自分の現状を知る。	4 易しい伸膝前転の行い方を知り、取り組む。 5 伸膝後転の行い方を知り、取り組む。 6 アドバイスタイム 7 自分の課題を知る。	4 前方倒立回転の行い方を知り、取り組む。 5 頭はね起きの行い方を知り、取り組む。 6 アドバイスタイム 7 自分の課題を知る。	4 倒立の行い方を知り、取り組む。 5 倒立前転の行い方を知り、取り組む。 6 アドバイスタイム 7 自分の課題を知り、取り組む技を決める。	4 課題把握・練習確認 5 練習タイム① 6 アドバイスタイム・練習タイム② 7 チャレンジタイム	4 課題把握・練習確認 5 練習タイム① 6 アドバイスタイム・練習タイム② 7 チャレンジタイム	4 課題把握・練習確認 5 練習タイム① 6 アドバイスタイム・練習タイム② 7 チャレンジタイム
8整理運動 9振り返り（クラス全体・個人） 10片付け							
評価の重点	知	① 学習カード	② 運動の様子	② 運動の様子	③ 運動の様子	④ 運動の様子	④ 運動の様子
	思				① 学習カード	② 運動の様子 学習カード	③ 運動の様子 学習カード
	態	①② 児童の様子 学習カード	③ 運動の様子	⑤ 運動の様子			

※太枠は「記録に残す評価」、その他は「指導に生かす評価」とする。

7 本時の活動計画（6/7）

(1) 本時の目標

- ・自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技や発展技に取り組み、技を身に付けることができる。

【知識及び技能】

◎課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。【思考力、判断力、表現力等】

- ・マット運動を行う中で互いの動きを見合う際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 本時の展開

○児童の主な学習活動 ・予想される児童の思いや考え	*教師の指導・支援 ☆評価規準（評価方法）【観点】
<p>○めあて、学習の流れの確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>め 仲間と互いの動きを見合い、自分の課題に取り組もう。</p> </div> <p>○場・器具の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マット・ふわふわマット・ゴムひも・タイムシフトカメラ <p>○準備運動・補助運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助運動では、主運動につながる「かえるの足打ち、ブリッジ、前転がり、壁のぼり逆立ち」を行う。 	<p>*習得したい巧技系の技（補助倒立、補助倒立前転、倒立ブリッジ）と、全体に共通する課題を確認し、本時の学習に役立てられるようにする。</p> <p>*安全に気を付けて、協力して取り組んでいる児童を称賛する。</p> <p>*マット運動で使う体の部位を意識できるように声をかける。</p>
<p>【課題の把握・練習確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題の把握を確認する。 ・自己の課題に適した練習を選択する。 <p>C:前に倒れながら腕を曲げる課題をできるようにするために、壁のぼり逆立ちから前転する練習をする。</p> <p>C:ふり上げ足を持ってもらって補助倒立の練習をする。</p> <p>C:倒立からブリッジをして止まることができないから、壁を使って練習する。</p> <p>【練習タイム①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題をグループの児童に伝える。 ・互いに課題を見合い、アドバイスをする。 <p>【アドバイス・練習タイム②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習タイム①を振り返り、課題の現状を考える。 ・次回の練習タイム②の練習の場や練習の仕方を決め、練習をする。 <p>C:前にたおれる時にうでが曲がってないと思うよ。</p> <p>C:そのために、壁のぼり逆立ちから前転する練習をすると思う。</p> <p>C:前にたおれる時につま先から足を着いてブリッジでとまることができないから、壁を使って練習する。</p> <p>【チャレンジタイム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイス・練習タイム②を生かしながら技の出来栄をグループごとに見合う。 	<p>*自己の技の課題をもとに、本時までにはあらかじめ練習の内容を決めるよう声をかけておく。</p> <p>*自分の課題に応じて練習の場を選択するように伝える。</p> <p>*【課題の把握・練習確認】では、苦手意識をもつ児童のところに積極的に入り、どのような課題なのか、どのような練習をするかを共に考える。</p> <p>*【練習タイム①】では、課題を解決するための取組や技のポイントを的確にアドバイスをしている児童への称賛を積極的に行う。さらに、課題の解決が見られる児童を称賛したり、課題に対して練習できているかを指導したりする。</p> <p>*【アドバイスタイム・練習タイム②】では、課題を解決するために、困っている児童のグループの話し合いに積極的に入り、どのような練習の場や仕方をするかを共に考える。</p> <p>☆課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (思・判・表③) 【観察・カード分析】</p> <p>*【チャレンジタイム】では、グループごとに必要に応じてタイムシフトカメラを用いて、互いの技の出来栄を見合い、伝えるように指導する。</p>

<p>○整理運動</p> <p>○まとめ・振り返り</p> <p>C:補助倒立では、ふり上げ足を高くふり上げることを意識したことで、補助する友達に支えてもらうことができた。</p> <p>C:補助倒立前転では、あごを引いて頭の後ろ、背中 of 順にマットに着いたら、倒立から前転することができた。</p> <p>C:倒立ブリッジでは、マットから手を動かさずに肘を伸ばしたらブリッジができた。</p> <p>○片付け</p> <p>・安全に気を付けて片付けをする。</p>	<p>*使った部位を意識してほぐすように声をかける。</p> <p>*全体で振り返り、その後個人の振り返りにまとめる。</p> <p>*協力して素早く安全に片付けられるように声をかける。</p>
---	---